

ハヶ岳だより

川崎市ハヶ岳少年自然の家

NO.42

2013. 3. 11



〈友情・信頼〉 〈てらめぎ・直感〉 〈私を見つけて〉

いつもの年より雪が多く降り、雪かきと氷砕きで疲れ切ってしまったこの冬も、夕方に感じる陽の長さで春遠からじと思えるようになりやっとなりました。

二月六日に川崎市に出張した際、多摩川の河原敷きが雪で真っ白になっているのを見てびっくりしました。

今夜も中学生がアストロハウスで星空観察をしています「寒い」とみんなで大騒ぎです。

先日、代々木オリンピック記念青少年総合センターで「全国青少年教育施設研究会」に参加しました。

一日目の特別講演で沖縄県文化観光スポーツ部長、平田大一の講演「感動体験型産業の...」をお聞きしながら、ハヶ岳での子ども達の時間の過ごし方を思い浮かべて、考えさせられることが多々ありました。

このハヶ岳で感動できる体験とはどういった事だろうか？

大人が善かれと思い立てたプログラムにより時間に追われ、主人公であるべき子ども達を急がせて、イライラしているのは大人たち、何か悪循環になっていないでしょうか？

プログラムで感動をするのではなく、プログラムを完走することが大事になっている様な気がします。

そこで、提案です。ハヶ岳の新規プログラムとして「自由時間」を作りたいと思います。施設探検でもなく、昆虫探しでもなく何も決めない、させない時間です。

悠々閑々、子ども達にも大人にも大切な時間だと思えます。

是非、プログラムに取り入れてみてください。是非、プログラムに取り入れてみてください。

春先にはとても良い体験になると思います。

冬芽の衣替え

八ヶ岳では一年の中で2月半ばが一番寒い季節です。

日々最低気温を更新しているような毎日の中で、白モクレンの冬芽がほころんでいるのを見つけました。

木の下に茶色の枯葉のようなものがいっぱい落ちているので、上を見上げると花？と思う形に花の冬芽が開いています。望遠レンズで覗いてみると、ふわふわの綿毛をまとった冬芽のカラを一枚脱いで春の準備をしていました。

白く大きな花が咲く4月までにはまだ間があり、花ではありません。

こんなに早く、それも一番寒いこの時期に白モクレンは衣替えをして厚い冬の衣を一枚脱ぎ捨てているのです。

思いついてダンコウバイや、コブシの木の下を見ると、ありました！小さな茶色の冬芽のカラが雪の上にいっぱい散らばっています。

寒い寒いと縮こまっている人間を横目に、木々は黙々と春の準備を進めていました。厳しい自然の中にこんな感動が隠れています。(K)



冬の自然の家では

2月に入り寒さも厳しく雪も例年になくたくさん降ったので、自然の家周辺は一面銀世界となり地元富士見町の人も雪の置き場に苦労しています。

その雪にはシカ達も苦労しているようで、エサを求めて自然の家周辺にも姿を見せますが、残念ながら子供達はその姿を見ることはなかなか難しいようです。

寒くなると辛いことばかりではなくちょっと良いこともあります。それはアストロハウスでの星座観察です。

寒くなると空が澄んでとてもよく星を見ることが出来るのですが、アストロハウスの屋根を開け始めると子供達は寒い寒いと大騒ぎです。そして真っ暗な空を見て星の多さにまた大騒ぎです。

厳しい寒さの中にも嬉しい・楽しいが隠れていることを子供達にも感じて・見つけて欲しいと願います。

(向川原)



～食事をつくっています～

自然の家では、食堂が「甲斐駒」「北岳」の2つあり、それぞれ調理の担当職員がいます。今回は調理の担当職員にインタビューしてみました。



Q1 自然の家の料理を作っていて宣伝したいことは？

・春から秋にかけては、地物のおいしい野菜を使って料理しています。

Q2 得意な料理は？

・メンバーそれぞれに和食、洋食得意料理があります。

Q4 趣味は？

- ・自転車、テニス、登山など各自、色々な趣味をもっています。アウトドア派が多いです。
- ・薪ストーブ用のまき割りも休日の日課になっている人もいます。



Q5 来られた方に感じてもらいたいことは？

- ・もう一度来てみたいと思ってもらえたら。
- ・川崎市と違い自然豊かな環境で料理も含め、リフレッシュできたと感じてもらえたら幸いです。

Q6 うれしかった事は？

- ・おいしかったと言われたとき。
- ・また是非来ますと言われたとき。
- ・気軽に話しかけてもらい、お客様と楽しい会話が出来たときなど。

Q3 どんなことに気をつけていますか？

- ・地物の食材を使い地産地消を心掛けています。
- ・食堂「北岳」ではファミリーに喜ばれる料理を、食堂「甲斐駒」では少年団体の利用が多いので子ども達に喜ばれる料理を中心に献立を立てています。

(ちょっとお薦めの一冊)

『いのちをいただく』 内田美智子 著

数年前に、この本の作者の内田美智子さんの講演をきく機会がありました。

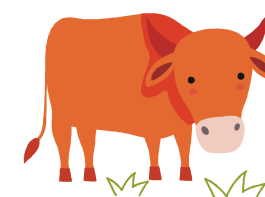
大学生に対しての講演会だったのですが、食について生について考えさせられるものでした。作者の内田さんは、助産師としてお産に携わり多くの赤ちゃんを取り上げてきました。

この本は、内田さんが講演活動している中で出会った食肉センターの方の体験談を基につくられた絵本です。この本を監修した九州大学の佐藤先生が本の中で次のように述べています。

「食べ物が満ちあふれている時代に、食べ物のありがたみを伝えることは難しい。食べ物を粗末にしてはならないと、教えることは難しい・・・そんな時代にどのようにして食べ物のありがたみを伝えるのか。『命』でしかないのだと思う。」

(「いのちをいただく」西日本新聞社 抜粋)

大人に限らず子どもにも読んでもらいたい本です。そして、機会あればどこかで内田美智子さんの講演もきいていただければと思います。



主催事業「ハヶ岳自然紀行」について

今年度に引き続き、平成25年度も主催事業「ハヶ岳自然紀行」を行います。

この事業は、四季折々のハヶ岳の自然、地域、文化への理解を深めると共に、参加者相互の交流を深めて頂く事業です。

日程等詳細につきましては、決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。



郷土の方言について

私が子どものときに比べて今は方言を使ったり、実際に聞いたりする機会が減ってきている気がします。

標準語を使う人が増えているからということもあるけれど、私が方言を使っていると田舎のおばあちゃんみたいなどと両親に言われてしまいます。

方言でしゃべっている人がいるととても嬉しいのだけだな～！

地方によっては方言ではないけれど、習慣もだいぶ現代風に変わってきています。

例えば「いただきます」「いただきました」という言葉。家族や保育園の先生から、食べるときの感謝の気持ちを表す言葉として教わりました。

でも「いただきました」は、今は「ごちそうさまでした」に代わって、ほとんど使う人がいません。(もしかしたら長野独特の表現かな?)たぶん使っている人は私ぐらいなのかもしれません。

『いただきました普及委員会』なるものを自分の心に作って、一人地道に活動しています。

昔ながらの言葉は、時としてきつい言葉として伝わるかもしれないけれども、郷土の方言をすたれることなく伝えていきたいと活動・奮闘中です。

みなさんもぜひ使ってみてくださいね。(小林)



川崎市ハヶ岳少年自然の家

〒399-0101 長野県諏訪郡富士見町境字広原
12067-482

Tel 0266-66-2011

Fax0266-66-2014

ホームページでも情報をお伝えしています。

<http://www.kawasaki-yatugatake.jp/>

指定管理者 (社) 富士見町開発公社

～あとがき～

早いものでもう3月。来月からは新しい年度です。

今年度は、自然の家の職員をより身近に感じてもらえればと、写真とインタビュー、その他様々な職員からのお話を掲載しました。

これからも職員からのお話、四季折々の自然のことなど掲載していきたいと思っています。

(D)